

プレキャスト式雨水地下貯留システムの多目的利用（基礎調査）に関する共同研究

全体期間

1997.1～1997.3

（目 的）

プレキャスト式雨水地下貯留施設は、都市部における雨水流出抑制施設として、施工工期の短縮、作業環境の改善及び周辺環境に与える影響（騒音、振動）の緩和、施設上部の有効利用等の長所を生かし、着実にその使用実績を伸ばしてきた。一方、都市部では、災害時の緊急用水や水環境の創出に関する水源の確保が必要とされている。プレキャスト式雨水地下貯留施設はこれらのニーズにも対応が可能な貯留施設であり、貯留した雨水の多目的利用方法として以下の項目が挙げられる。

- ・貯留雨水の利用による防災用水利用（消防、非常時雑用水）
- ・都市における水環境の創出（せせらぎ用水、修景池等）
- ・上部施設（公園、校庭等）の管理用水、雑用水への利用

本研究はプレキャスト式雨水地下貯留施設内に貯留した雨水を多目的に利用できるシステムの提案を目的とし、本年度はその基礎調査として自治体へのヒアリング及び文献調査を実施した。

（結 果）

1. 地方自治体へのヒアリング調査

流出抑制施設として、プレキャスト式雨水地下貯留施設を設置した自治体を対象に維持管理状況及び貯留雨水の有効活用の事例について調査を行った結果、以下のことがわかった。

- ① 貯留雨水を利用する場合には、その目的に応じた水質を確保するための補完施設が必要であること。
- ② 貯留雨水の多目的利用事例は、見受けられなかったものの、多目的利用に関するニーズ（防災用水、環境用水等）があること。
- ③ 多目的利用に関して他部局との連携が重要であること。

2. 貯留雨水の多目的利用に関する文献調査

貯留雨水の多目的利用の事例について、文献等の収集を行った。

共同研究者：財団法人 下水道新技術推進機構

プレキャスト雨水地下貯留施設協会

研究担当者：前田 正博、伊藤 紀夫、森岡 真一、石川 泰裕

キーワード

雨水利用、防災用水、環境用水、多目的雨水地下貯留システム